



オ リ ー フ 通 信

見よ、それは極めて良かった。

創世記1章31節

神愛保育園

「六月をおかえて」

そろそろ梅雨入りを感じさせる6月にはいりました。5月の懇談会は、久しぶりに対面で行い、多くの方にご参加いただきありがとうございました。クラスの保護者の方が顔見知りになり、今後、このつながりを子育てがしやすくなる一助にさせていただければと願っております。

今月は、花の日礼拝、夏祭り、5歳児の龍神太鼓、プール準備や水遊び、(4・5歳児)キャンプへ向けての導入準備等、この季節ならではのことを予定しています。行事は楽しい時を過ごすのと同時に、お友だちとの関係、初めての体験への期待感や不安と向き合う心の成長、難しい事を乗り越える力、自然に触れる経験等の、学びと成長を育む場ともなります。また、これから梅雨入りを迎え体調を崩しやすい時期になります。子どもたちの健康・安全を守り、夏の活動を充実させていきたいと考えております。

さて、5月24日に、ひまわり組の親子遠足を行ないました。この親子遠足は、毎年、千葉の酒井農園を訪れ、秋に収穫するサツマイモの苗植えやジャガイモ掘りを行います。園としては、50年近く続いている行事です。毎年、季節的に雨を心配することが多いため、今年度は、いつもより早めの日程を設定しました。ジャガイモにとっては、もうあと1週間土の中にいたら大きいものが多かったとのことでした。そして、昨年度は雨天プログラムだったため、久しぶりの親子遠足での農作業となりました。ひまわり組の子どもたち全員初訪問です。保護者の方の中には、小学校以来のいもほり体験という方もおられました。日常とは違った環境の広い畑の中で汗を流しながらの親子での体験はよい協同作業となったのではないのでしょうか？ 秋になったら、さつまいも掘りに出かけ、その後、子どもたちはそのおいもで、クッキングを行います。今から秋が楽しみです。

また、5月中旬から各クラスとも「保育参加」が始まっています。保育園は子どもの集団の世界です。その子どもたちの中に入って、一緒に感じたり体験したりして頂ければという趣旨と願いから実施しているものです。時には、ご家庭とは異なる子どもの姿、ひとりの時とは異なった姿、お友だちとの遊びや関係などに新たな発見をすることもあります。保育園は、保護者の方と様々なかかわりがあります。しかし、その一方で、登園や降園及び親子参加の行事以外は見えない部分、見えにくい面もあると思います。それゆえ、保育内容を公開し、時を共有し、理解を深めて頂くため「保育参加」を行っています。参加は自由です。お仕事のご都合等があると思いますので、無理はなさらないで下さい。諸般の事情から期間を設けていますが、設定期間以外でも歓迎です。何かございましたら、ご遠慮なくご相談下さいますようお願いいたします。

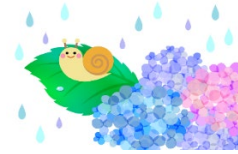


間以外でも歓迎です。何かございましたら、ご遠慮なくご相談下さいますようお願いいたします。

神愛保育園園長

鵜澤由記子

保健だより 2024年6月



5月は真夏日の日もあり、半袖シャツで元気に過ごす子ども達の姿がありました。また梅雨の走りのような雨の日もありました。今月は本格的な梅雨の時期となり、初夏独時の高温の日も増えてきます。園では、空調(換気と扇風機・エアコン使用)で温度・湿度管理をしています。感染症対策と共に高温対策も気を配っていきます。

【熱中症に注意】

身体が暑さに慣れる前に高温の日が続くと、熱中症の危険が出てきます。園では、熱気球計を使用し、熱中症アラートが出る危険な日には屋外活動を控えます。ご家庭でも、こまめな水分補給と休憩をとるようにしてを防ぎましょう。また、口から水分が摂れなくなる、顔色が悪く会話が難しいことがあったら、救急車を呼んで下さい。園でも熱中症対策をしながら、活動していきます。

【虫刺されについて】

これからの季節に増えるのが蚊による虫刺されです。乳幼児は蚊に対する抗体がないため、赤く腫れることもあります。蚊に刺されたところを掻きすぎて化膿しているようにみえる場合や熱感が強い時には皮膚科を受診しましょう。



(掻き壊しがとびひになることもあります。)園ではもも組以上のお子さんにはサラテクトスプレーを園外活動のときに使用しています。

◆夏の感染症◆

【手足口病】

早い時期に高温が続いたこともあり、地域で緩やかですが流行がありました。手、足、口に米粒ほどの水泡性の発疹ができます。発疹は水泡状で、軽い痛みを伴います。複数のウィルスが原因となるため、何度も発症することがあります。まずは受診をお願いします。比較的軽い病気なので、自然に治ります。しかし高熱になることもあり、口腔内の痛みや発熱が強い場合は解熱鎮痛剤を使う場合もあります。口腔内の痛みから、食事量が落ちることもあります。解熱し、食事ができるようになることが登園の目安となります。



【咽頭結膜炎(プール熱)】

急な発熱(38~40℃)、のどの腫れや痛み、リンパ節の腫れ、目やに、涙、充血など結膜炎の症状がみられます。アデノウィルスが感染の原因です。プールや水遊びの時期に流行することから「プール熱」とも呼ばれます。飛沫感染や接触感染もします。タオルや洗面器、食器を共洗濯も別にしましょう。まずは受診をお願いします。高熱の場合は小児科を、結膜炎の症状がある場合は眼科での治療が必要です。大人は抗体を持っている事が多いので、罹りにくいですが、感染することもあります。ご注意ください。

この疾患は、登園の際に意見書が必要です。





6月 食事だより



今年度も食育活動をたくさん行っていきます!!

神愛保育園では「郷土料理の日」という献立日を設けて日本の各都道府県の郷土料理を提供しています。昼食とおやつの中で1～2品をその月の郷土料理として提供し、ひまわり組には都道府県の絵本を通してその土地や食べ物の話をします。最近はおもたちの食べやすさを重視して、B級グルメなども取り入れています。5月の郷土料理はカレーナ(カレーミートソース焼きそば)という新潟県の料理です!



もう一つの取り組みは、枝豆の栽培から加工までをやってみるという活動です。(年長クラスで行います。)種まき→お世話→収穫→そのままを味わうところから、潰してずんだにしてみたり、乾かして大豆の収穫→きな粉を作る→乾燥大豆からの豆腐作りまで、一つの食材から色々な食品へと加工していきます。コロナ禍ではなかなかできませんでしたが、今年は復活する予定で種まきが終わり、かわいい芽が顔を出しています。種の形をよく見せているので、大豆になった時にその形状が似ている事に子どもたちは気付くのでしょうか? とても楽しみです!



ひだまり ～地域の親子と園児の交流～



紫陽花の花が少しずつ色づき始め、梅雨の気配を感じる季節となりました。

5月25日に行われた『保育園であそぼう』(土曜日につくしたんぼ組の部屋を開放して、自由遊び・製作・手遊び等を楽しむプログラムです)では、総勢16名の親子にご参加いただき、粘土スライムを作って感触を楽しみ、パパも一緒に部屋のおもちゃで遊びました。



入園を踏まえての参加もあり、「親と一緒に遊ぶことで場所に慣れることができ良かった。」「普段保育園の中に入ってじっくり見ることができないので貴重な体験ができました。」などの感想も聞けました。



今年もひだまりでは、親子と一緒に夏野菜の大葉・きゅうり・なす・枝豆・ラディッシュを植え、育てています。収穫した野菜はお家へ持ち帰ってもらうだけでなく、調理してランチタイムに味わいたいと思っています。地域の親子や、散歩帰りに立ち寄ってくれる園児たちと一緒に野菜がたくさん育つのを毎日楽しみに見守っています。

花の日ってなあに？



1868年にアメリカの教会で「こどもの日」が始まりました。アメリカではこの頃ちょうど学年が変わる時期、教会では子どもたちと大人の交流の時間が持たれ、花の豊かなシーズンだったので、花を持ち寄り飾ったことから「花の日」とも呼ばれるようになりました。日本では、この花を持って病気の方を見舞ったり、社会のために働いている方を訪問したりします。

神愛保育園では、交番、デイケアセンター、ゴルサムパンや、ご近所の方々を訪問させて頂いています。神の恵みを覚え傍らにいて見守って下さる方々に感謝を表し、子どもたちの訪問を喜んでくださる方がいることを覚えたいと願っております。お花は園で用意したものを持参します。

～中1高1同窓会がありました～

5月25日（土）に今年中学生、高校生になった神愛保育園卒園児の同窓会がありました。中学生は10名、高校生は9名の参加がありました。当日は旧職員の大滝さんや三上さん、小平さん（旧姓北村）が参加してくれ昔話に花が咲きました。中学生は新園舎初の卒園児でもあり「ロフトなつかしいわ～」と男子たちが登り、天井に頭がつきそうなくらいの背丈になっていました。高校生は学校帰りだった子もいたので制服で来てくれました。卒園アルバムや文集を久々にみて「こんなこともあったね」と昔の記憶がよみがえって話が尽きませんでした。中学生の保育園の思い出は全員「キャンプ」でした。「スイカ割りしたわ」「川に入ったよね」と記憶がよみがえっていました。高校生たちは旧園舎の卒園で新園舎に初めて入る子たちも多く「変わったね～。でもロフトは残ってるのが嬉しい」と話してました。高校生も保育園の思い出は「キャンプ」だったようで「川に入って寒くなって焚火にあたったね」と話が尽きることなく当時を振り返ってました。中学生の子の中には部活で「ボランティア部」に入った子や高校生の中には進路が「保育士めざします！」と嬉しい話も聞くことができました。



中学1年生



自分達の幼少期を見て盛り上がる高校生



高校1年生

～絵本紹介～

6月といえば、雨続きで室内で遊ぶことが多くなる梅雨の時期はなんだか憂鬱。そこで雨の日がもっと楽しくなりそうな乳児の子どもたちに向けた絵本を紹介したいと思います。

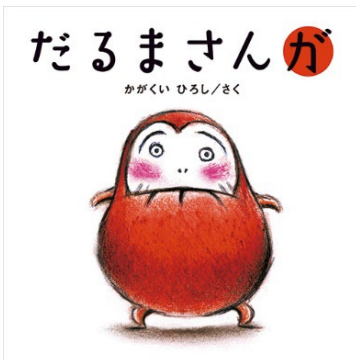


「たまごのうた」 絵：市原 淳 出版社：フレーベル館

手のひらサイズのボードブック。表紙を開くと、中央に白い大きなたまごが現れます。そのたまごの部分をめくると、かわいらしいひよこが登場！「まあかわいい ピョピョピョ」とニッコリ微笑みかけます。最後は「親子で一緒にギュギュギュ」とあり、親子でスキンシップできるといううれしいおまけつき。本をめくりながら歌を歌って、手遊びをして、ぎゅっとして。お子さんと一緒に楽しんでくださいね。

「お?かお!」 作：ひらぎ みつえ ほるぷ出版

一目見て、あかちゃんが思わず手をのばしてしまう絵本。表紙全面が顔になっているんです。さらに、口に指を入れて左右に動かせば…目がキョロキョロ! そう。この絵本はあかちゃんから楽しめる「顔のしかけ絵本」。ページをめくれば、今度は口が大きくあいて「あっはっは」。まゆげが動いたり、舌がのびたり。顔の一部を動かすと、あら不思議。あっという間に表情が変わります。



「だるまさんが」 作・絵：かがくい ひろし ブロンズ新社

「だるまさんが」ときたら……「転んだ?」と思いますね。でもここに描かれただるまさんは、次々に予想外のリアクションを見せます! さらにだるまさんになりきって体を横に動かしながら、オノマトペ(「どてっ」などの擬声語)を変えて読んだり、さまざまに遊べます。そして「だるまさんシリーズ」は全3冊どれも子どもたちに人気です。「だるまさんが」「だるまさんの」「だるまさんと」

「もこもこもこ」作：谷川 俊太郎 絵：元永 定江 文研出版

はじめは「しーん」と静か。

やがて、「もこ」。地面の一部が盛り上がり。

「もこもこ」、それは大きくなり、隣には「によき」っと新たにちいさな盛り上がり。ページをめくるとに次々に起こる驚きの展開。

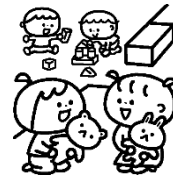
それらはどんどん大きく膨れ上がり……そして最後には! ?

不思議でおかしな絵本の世界を繰り返して楽しむ子どもたちが増えています。





ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2024年5月14日（火） 天気 くもりのち晴れ もも組（2歳児）

あとで探しに行こう

今日は高森公園に散歩に行った。広場の方で遊ぼうとボールを持っていったのだが、全員分は無いため、取り合いになってしまうので、最初は色々な方向へ保育者が飛ばして、取れた子から順番に使うことを伝えて遊び始めた。ボールを取ることが出来なかったAがその場でしゃがんでいた。すると、その様子を見たBが、Aの手を取り、「ボール後で探しに行こう」と行って近くの木に向かって一緒に歩いて行った。木に到着すると、AとB2人で一緒に石を探したり砂に絵を描いたりして一緒に遊ぶ姿があった。Aは思い通りにならないとしゃがみこんでしまったり、全て嫌がってしまうことも多くあるが、今日はBが遊びに誘ってくれたことですぐに気持ちが切り替わり遊び始めることが出来た。他児との関わりが増えたことでこういった姿が見ることが多くなってきている。他児との関わりを大切にしながら過ごしていけるよう、配慮していきたい。

この日誌は、もも組(2歳児クラス)のお散歩に出かけた時の様子です。Aはボール遊びをしたかったけれど、ボールを手にすることが出来ずその場でしゃがみこんでいました。自分の思い通りにならないことを身体で表現していたのでしょうね。このように身体と言葉で“要求を実現したい”という強烈な自我を表現する姿は2歳児クラスではよくあります。Bもボールで遊びたいと思っていたのか、Aの気持ちを察し「ボールを探しに行こう」と誘っています。Aは“思い”が汲み取られ、自分の思いが尊重されたことで喜びを感じ、前向きな姿へと変わっていきました。

まだまだ、自分の思いを言葉にすることが難しいためトラブルは多いですが、お互いを尊重しあうこともわかり始め、共感いっぱい楽しい世界が開かれるこの時期。友だちとの世界を豊かに発展できるように、友だちに認められたり、受け入れられたりする経験を大切に保育していきたいと思います。



2024年5月22日(水) 天気 くもりのちはれ ひまわり組(4歳児)

ちょっぴり年長さん気分!

今日はちゅうりっぷ組と4歳児年中さんで一緒に八名川公園に行く。年中さんは(ちゅうりっぷ組と一緒に散歩ということもあり)気合いも入っており「道路側に年中さんが立って、ちゅうりっぷさんを守るんだよね」と言葉がでてくるほど意識して歩いていた。公園でも、ちゅうりっぷ組さんにかっこいいところを見せたいA、B、Cは昨年までは滑り台ジムに登れなかったようだが、先日八名川公園に行った時に(何度もがんばって滑り台ジムに挑戦して)自信がついて登れるようになったので「ちゅうりっぷさんおいで」とリードしてくれる姿が見られた。ちゅうりっぷ組さんは初めて行った八名川公園だったが、初めての滑り台ジムが楽しかったようでちゅうりっぷ組のD、E、Fなど何度も繰り返し登って滑るを楽しんでいた。また、ちゅうりっぷ組のGは砂場で年中のHと一緒にいることが多くジムには興味を示さずにいた。

4歳児年中は、日常ではひまわり組で5歳児年長さんと一緒に過ごしています。年長児さんと一緒に過ごすことで、自分たちが生活するうえでいろいろ教えてもらっていることや、散歩の際にも年長さんから助けてもらっていること、やってもらっていることに対して言葉に出さなくても、子どもたちが学んでいることをこの日誌から感じ取れます。

「道路側に年中さんが立って、ちゅうりっぷさんを守るんだね」との言葉が子どもの中から発せられています。この時期、ひまわり組で散歩の際には常に年長児さんが道路の側に立ち4歳児年中さんを守ってくれています。この体験があつてこそ、年中の自分たちが、今度はちゅうりっぷさんを守っていく側に少しずつ変わっていくという意識の変化を散歩の中で体験しているのですね。

また、滑り台ジムが苦手だった3名の子どもたちが、「ちゅうりっぷさんおいで」と言っている姿には本当に驚かされました。以前、滑り台ジムに登れずにいた際にはよく不貞腐れたり、不機嫌になっていたことを聞いていました。滑り台ジムに登れることになったという一つの機会が当事者にとっては、大人の想像以上に、とても大きな喜びだったのでしょうか。神愛保育園では、異年齢で過ごすことを大切にしています。これから行事などで一緒に力を合わせて行うこともたくさん出てきます。その中で、お姉さん、お兄さんからいろんなことをたくさん学んでほしいと思います。



